



記述式など3種類の試験で競い合う

地 理

毎年夏に開催の国際地理オリンピックは、各国の予選を勝ち抜いた高校生が、記述式、フィールドワーク、マルチメディアの試験に挑み、多方面にわたる「地理力」を競います。各試験とも英語での出題ですが、非英語圏からの参加者への便宜を図るために紙辞書の持ち込みは可能で、一部の専門用語については、母国語での翻訳メモが配布されます。

それぞれ4割、マルチメディアは2割で、3種類の試験の総合得点の上位者から順に金・銀・銅のメダリストが1・2・3の割合で決定されます。試験以外には、ポスターセッションは、日本語と英語での出題の割合が8・2となっております。

3次にわたる選抜試験が以下の通り実施されます。

12月開催の1次選抜では、マルチメディア試験が課され、千人を超える受験者の中から上位約100人を通して判定します。2月開催の2次選抜では、記述

セルビア・ベオグラード大会で表彰式後にシンガポール代表と記念撮影（2017年8月）



式試験が課され、1次の得点と合算した総合得点の上位より金・銀・銅のメダリストを世界大会と同様の割合で選出します。そして、金メダリストの中から国際大会への参加条件を満たした上位約10人を通して判定します。3月開催の3次選抜では、フィールドワーク試験が課され、その得点結果とともに、1次・2次の成績や英文問題の解答状況も考慮に入れながら厳正な審査を行い、4人を日本代表候補として選出します。

新型コロナウイルスによる感染も収束の兆しを見せており、本年度のインドネシア・バンドンでの国際大会は4年ぶりに対面開催となります。

国際地理オリンピック日本委員会ホームページは<https://ia-pari-go.com/>。

（泉貴久・国際地理オリンピック日本委員会実行委員会総務担当副委員長・専修大学松戸高校教諭）

参加条件について、6月30日の時点で16〜19歳の高等教育を受けていない者とされ、各国とも選手4人、引率教員2人での参加が原則となっています。配点について、記述式とフィールドワークがそれ